

出題分析		
試験時間 90分	配点 100点	大問数 5題
分量（昨年比較）〔減少 同程度 増加 〕		難易度変化（昨年比較）〔易化 同程度 難化〕
<p>【概評】</p> <p>昨年と同様に大問数は 5 題であった。地形図の読図問題は例年通り出題され、近年は新旧の地形図が取り上げられることが多い。ここ数年は世界地誌も毎年出題されている。すべての大問において、地図・表・グラフ・地形図などの資料が用いられている。論述問題については、字数制限のない設問と字数制限のある設問が混在している。字数制限のある場合でも、去年は最大が 40 字、今年は最大が 50 字、最少が 20 字であり、比較的短いことが京大入試地理の特徴といえる。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	ロシア地誌	<p>短答記述問題はすべて標準レベルといえるが、ロシアの地誌の学習が不十分であった受験生には難しく感じたかもしれない。また、論述問題は、50 字以内であった(4)③を除いて字数制限がなかったが、いずれも基本事項である。(2) ①で古期造山帯、②で新期造山帯を指摘するだけでは不十分で、設問の要求通り特徴と成因をきちんと示すこと。(4) ①・②・③は総合的に判断するとよい。パイプラインに関する出題はしばしば見られる。</p>	標準
II	地域区分	<p>新課程で重視されているテーマからの出題であった。(3) 基本事項で論述の定番。(4) 東南アジアの国はベトナムとラオスの 2 か国で、表中 X～Z の中で「有」が 2 つの Y が ASEAN、したがって、アがラオスとなる。X と Z とともに「有」であるイが日本で、ラオス (ア) と日本 (イ) がともに「有」の X が RCEP と判断できる。</p>	やや難

設問別講評			
III	GDP と輸出	A はアメリカ合衆国，B は中国，C は日本，D はケニア，E はサウジアラビア，F はシンガポールである。国名を直接問わずに，国名の判定を前提として各問に答えさせる方式は京大入試地理ではよく見られる。論述問題・短答記述問題ともに基本事項であるため，大きな失点は避けたい。(2) 産業については工業化，貿易については国際分業や水平貿易に言及する。	標準
IV	農村人口	(2) ①日本の農村がかかえる問題は，過去問で何度も見られる。A はナイジェリア，B は韓国，C はフランス，D はニュージーランドである。(3) 示された主要作物が主食となっているが，その生産性が不安定かつ伸び悩んでいることを読み取る。(5)② やや難しいが，環境先進地域であるヨーロッパの農村をイメージするとよい。(6) 南半球に位置し，人口が少なく，国内市場が狭いことから考える。	標準
V	地形図読図	(1) 台地の崖下は水が得やすく，自然堤防上は洪水を避けやすい。(4) 公害や住環境の悪化のほか，建物や土地にかかわる問題も考える。(5) 臨海指向型工業の立地条件を指摘する。(6) ② 若い世代の核家族の指摘だけでは字数が不足すると思われるので，高齢者が少ないことに言及する。	標準

合格のための学習法

今年も教科書レベルの基本事項を扱った問題が大半を占めた。地形図の読図問題は毎年出題されているので，学習を怠ってはならない。統計資料問題も頻出であるため，共通テスト対策と併せて十分な対策が必要である。さらに，地誌に関する問題も出題されていることから，すべての地域について教科書をベースに必ず地図帳も併用して学習し，基本事項を正確につかんでおきたい。また，過去問と類似の内容が問われたこともあるので，過去問演習を徹底し，さらに，過去問に関連する事項も併せて学習しておきたい。